

赤かび病防除は適期に行いましょう ～「びわほなみ」は2回防除必須!～

1 生育状況と赤かび病防除

今年産小麦は播種後、平年よりも気温が高く推移したことから、生育は早く進んでいます。また、向こう1か月の気温は、平年より高いと予想されており、出穂期・開花期は昨年よりも早くなると予想されます。

赤かび病の防除効果を高めるため、遅れずに適期（開花始め～開花期）に防除を実施しましょう。



赤かび病に罹病した小麦

◎赤かび病の防除時期の目安

(中山間:11/5～11/15播き、湖辺・平坦:11/10～11/20播きの場合)

出穂期予想	1回目 開花始め～開花期	2回目	3回目
3月31日頃～	<u>4月15日頃～</u>	1回目防除の 7～10日後	注意報や多発が 予想される場合

<注意点>

- ・「びわほなみ」は赤かび病に弱いため、**必ず2回防除をしましょう。**
- ・開花した時が最も赤かび病にかかりやすいので、開花期（ほ場内の穂の40～50%が開花）の薬剤散布がより高い効果を期待できます。
- ・播種時期や今後の気温の経過により出穂期から開花期までの日数が変わることから、ほ場の生育状況を確認し防除を実施してください。
- ・薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続き、赤かび病の**多発が予想される場合は、3回目の防除**が必要ですので関係機関等からの情報にご注意ください。

2 実肥施用について

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。実需者の求める品質評価基準を満たすため、実肥を施用しましょう。なお、穂肥に緩効性肥料を施用した場合は、実肥は必要ありません。

施肥体系	実肥	施用時期と施用量の考え方
分施体系	硫安 20kg/10a	• 出穂10日後に施用する。 • 穂数が少ない場合は施用量を半分程度に減らす。
低コスト 後期重点体系	硫安 10~20kg/10a	